

なんでも相談会 & インボイス制度個別相談会

要予約 TEL 03-3986-2471

1月のなんでも相談会は、26日(金)13時30分～15時30分まで1日4組。法律相談、税務経営相談です。顧問税理士、弁護士が相談に応じます。

インボイス制度個別相談会は19日(金)、26日(金)10時～16時(45分毎)となります。



(購読料は組合費の中に含まれています。)

定価三十円

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区西池袋 5-22-15
電話 豊島 (3986) 2471
北 (5390) 6021
板橋 (3963) 5325
練馬 (3825) 5522
発行人 寺島 耕平
発行予定日 毎月4回
1日、9日、17日、25日

川村雅彦さんの

獅子舞にかける 年末年始

新年あけましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。

新年最初の記事は、我がかなめ分会の川村雅彦副分会長を取材して、記事にさせていただきました。



原田陽弘通信員
かなめ分会

川村さんは昭和53年生まれの45歳、生まれも育ちも豊島区で、現在はお父さんの稼業を引き継いで工務店を経営しています。21歳から22歳まで東京土建建築カレッジに通って技術と知識を身に付けました。大工職人としての技術はもちろん、企画力と提案力を併せ持った職人であり事業主でありたいと、日々研鑽を積む毎日です。

その川村さんが、獅子舞を始めたきっかけは、小学生3年の時に町内会の掲示板で、「お囃子練習会募集」の貼り紙を見たことでした。最初は、もちろん何もわからず練習に通い続けていましたが、獅子舞を教えてくれる大人たちとの関わりが子供心に楽しかったと述懐します。

初舞台は、町会のお祭りで小学校4年生の時でした。それ以来、年間平均して最低でも10回以上は獅子舞を演じ続けています。現在でも、稽古は欠かさず続けていて、気が向いたときに自宅ですとのこと。獅子舞の衣装は自前で、自宅で保管・管理します。3年くらい使い続けていると傷んでくるので、作り直すそうです。

川村さんが舞う「長崎獅子舞」は、元禄年間(1688年～1703年)から伝

承される豊島区の伝統芸能で、1992年には区の無形文化財に指定されました。

獅子舞を演じながら、連綿と引き継がれてきたこの芸能の歴史を、川村さんは感じずにはいられないと話します。長時間の演舞は見ても相当ハードそうですが、その辺を質問すると、実際ものすごくハードと答えます。しかし、子供の頃から当たり前のようにやっていることから、表現は変ですが、義務感のような気持ちで続けているとのこと。自分に出演依頼をしてくれた人たちの気持ちに応えたいのは勿論ですが、先代たちが残してくれたこの芸能を、自分が受け継ぎな



獅子舞を演じ終わった川村さん

がら演じて、見た人々の記憶に自然な形で残していくことが、文化や伝統の継承だと思いながらやっているとのこと。そうした思いが義務感という言葉で川村さんに使わせるのかな、とも思いました。

新年も、豊島区の賀詞交換会や各団体の新年会その他で囃子や獅子舞を演じる予定が詰まっているそう

です。

川村さんの獅子舞を一度拝見したことがあります。私が組合に入って初めて参加した旗開きで、息子さんと一緒に演じてました。各テーブルを回りながら私の前にも来てくれたのを覚えていています。今日、インタビューさせて頂いて、ぜひまた、川村さんの獅子舞を拝見したいと思いました。

新年に思う たった十七音の無限で奥深い世界

新しい年が立つと人の心も改まり、四方の景色も新鮮でみずみずしいものに思えます。

俳句の世界でも著名な俳人たちが新年を寿ぐ名句を読み、多くの人びとを魅了します。私の好きな俳人の秀句を二句紹介します。

元日や手を洗ひをる夕ごろ 芥川龍之介

元日の諸行事も済み、一息ついた情景を捉えています。暮れかかる庭を見ながら縁先に置いてある手水鉢で手を洗っているのです。新年の祝いも一段落、安堵した気分が伝わってきます。現代では昔に比べ、元日を迎える気分やしきたりが、かなり変化していますが、季語を通じて見える情景はどの時代にも通じる心をとらえているといえます。文学賞に名を残した芥川龍之介は作家として有名ですが、「餓鬼」と言う俳号を持ち、俳人としても知られています。

膝にきて模様で満ちて春着の子 中村草田男

父親の膝を模様でおおいつくすばかりの春着の模様に包まれている女の子の、小ささと可憐さが伝わってきます。色彩の美しいとても可愛らしい着物であったに違いありません。正月の華やかさをきわだてています。

中村草田男は定年まで成蹊学園の大学教授を務める一方、高浜虚子に師事し、俳句の現代化を推進しました。内面心理を読むことを探求した俳人で人間探求派と呼ばれています。



間辺美恵子通信員
南池袋分会

名句の後に、幼稚な私の自作の句を載せていただくことは、大変おこがましく思いますが、新年の季語で五句読んでみました。読み解いていただければ有難いです。

おろが
拝みて心新たや初日の出
野の香立つ七草粥の朝餉かな
七福を巡り高まる期待感
「元気ですか」友が賀状に
追い書きを
これよりの余生と思う初句会

俳句はたった十七音で自分の思いを伝える短い形式の詩歌です。詩を感じられるような作品づくりを目指していますが、句心も乏しくいまだ趣味の域を脱していません。俳句の奥深さを承知の上で、今後とも楽しみながら続けていきたいと思っています。



左は息子さんの禪(ぜん)さん

私の推しスポット

雑司が谷 鬼子母神

新井睦子通信員 南池袋分会

よく「鬼子母神社はどこですか」と道を尋ねられますが、鬼子母神は日蓮宗の法明寺の鬼子母神堂です。神社ではないです。

雑司が谷の鬼子母神像は鬼型ではなく、羽衣・瓔珞をつけ吉祥果を持ち幼児を抱いた菩薩形の姿をしているので角のつかない鬼の字を使っているそうです。

安産・子育ての神様で、お宮参りや11月近くには七五三でにぎわっています。でも一年で一番にぎわうのは、10月16日から18日までの御会式です。縄や万灯、太鼓をたたいて鬼子母神まで練り歩きます。日蓮宗の行事ですが、地元では宗教に関係なく参加しています。

コロナ禍の前は、大みそかの法明寺の除夜の鐘の音が聞こえてきてました。一般の人が鐘を突けるので行列ができていました。百八つより多かったようです。

鬼子母神の初詣は行列ができ、屋台も出てにぎわいます。行列がなくなったらお参りに行こうと思っているうちに七草も終わってしまいます。お正月が過ぎて静かになったころ頃、いつも初詣に行ってます。



御会式

初詣に「江古田の富士塚」がお勧め

竹鼻三枝通信員 直属分会

富士塚は富士山の神に対する信仰に基づき、富士山に模して作られた山や塚の事。江戸時代中期に富士信仰が盛んになり、富士塚も多数作られた。

現在も東京都内には50カ所の富士塚が存在するとされる。中でも、国の重要有形民俗文化財に指定されているところもあり、その内の1つが江古田の富士塚。場所は西武池袋線江古田駅の目の前、茅原浅間神社境内。

大きさは、高さ8m、直径30mで全体が富士の溶岩で覆われゴツゴツしている。

塚には、小御岳神社、身祿尊祠など、富士信仰にとって重要な石碑や記念碑。一合から十合までを示す標柱が立てられ、頂上には奥宮である。祠が祀られている。富士山に登ることのできない人が一合目二合目と思い入れを込めて登れば神々しく有難く、霊験あらたかであると、富士山に登ったと同じご利益が得られると言う。いつかは、世界遺産に「富士山・信仰の対象と芸術の源泉」と登録された霊峰富士の頂上に立ちたいと思うけれど、身近なパワースポットでオススメ。



賑わいから元気をもらいました 浅草寺

大嶋清子通信員 上池袋本町分会



今年の元旦、何年かぶりに家族3人で浅草寺に行きました。雷門通りは、人で賑わっていました。浅草寺本堂まで行くのに2時間以上でやっと仲見世通りを抜け参拝が出来ました。お守りを買い、おみくじを引き仲見世通りには戻れないため、隣の浅草神社から帰り道、うなぎ屋に入り、お酒を飲みながら、これからの思いを話しました。浅草は一年中賑わっている浅草寺と仲見世通りが人気のパワースポットだと思います。

素盞雄神社

「スサノオジンジャ」と読みます。

野本陽子通信員 上池袋本町分会



荒川区南千住にある神社です。地元では千住素盞雄神社または「お天王様」と呼ばれています。御鎮座千二百年の歴史あるパワースポットとして、ご利益を求めて多くの参拝客が訪れています。

この神社は、「素盞雄大神(スサノオオカミ)」と「飛鳥大神(アスカオオカミ)」の二柱が授けてくださるご利益で、災難厄除や商売繁盛、病氣平癒のほか心願成就もあるそうです。

昨年分会女性の会で初詣に行きました。都電の終点箕輪駅から徒歩10分ほどのところにあり、街道に面していながら、大鳥居をくぐるとまるで別世界のような空気が広がり、おごそかでそれでいて清々しい空気に包まれている感じがします。

先日また行ってきました。そして昨年感じたような同じ空気に包まれ、とても気持ちの良い時を過ごしました。

松尾芭蕉の句碑 「行く春や鳥啼き魚の目は泪」もひっそりと立っています。

パワースポット 池袋氷川神社

伏見智美通信員 上池袋本町分会

池袋氷川神社は東上線下板橋駅より徒歩5分の住宅街にあります。

仕事運や学業、交通安全等、様々なご利益があるそうです。

有名な池袋富士塚があり毎年7月1日にお山開きが行われ大勢の方が参拝しています。前日からは無病息災を祈る神事で茅の輪ぐりや朝顔市もあります。

9月には氷川神社例祭があり町内会のお神輿が一斉に集まり参道には縁日と賑わっています。

年末年始の参拝はどこでも良いと思っていましたがこちらに越してきてからは娘の七五三や卒園、入学式などには参拝するようになりました。この地域の土地をお守り下さる氏神様がいます。娘が幼少の頃、大病し退院後は毎朝お礼参りを娘としていましたが1人で学校に行くようになり2人で参拝することもなくなりました。来年は高校受験、合格祈願に行きたいと思います。

夏の賑わう神社も良いですが、春になると参道に咲く桜並木も私は好きです。富士山登頂のご利益を頂けるという「池袋富士塚」でパワーチャージしにいらして下さい。12月31日は無病息災を祈る年越しの大祓が催されています。新年を新たな気持ちで迎えたい方は是非訪れてみて下さい。皆さま良いお年をお迎え下さい!!



氏神さま 天祖神社

石川博子通信員 さくら分会

大塚駅南口から商店街に入り、なだらかな坂を上ると右手にあります。御鎮座七百年で現在屋根と拝殿の工事中です。境内に樹齢六百年と言われる夫婦銀杏があり、大空襲で爆撃を受け枯れかけましたが、高さを半分の25メートルに縮めたところよみがえり、今も枯れることなく枝葉を広げています。黒こげの跡は今も残っています。

境内の入り口には授乳中の子育て狛犬の姿を見ることができます。社殿奥には稲荷神社と三峯社がまつられています。

子供が幼い頃は紅白歌合戦が終わり、除夜の鐘を聞くと家族揃って初詣に出かけました。都電も終日運転になりましたが歩いて行きました。初詣の人が境内の周りを取り囲み、何百人もの人が住宅街に列をつくりました。焼きそば、たい焼き、フランクなど屋台も賑やかでした。お詣りがすむとおそばを食べ、親子四人おしゃべりをしながら家まで帰ったことなど今となっては良き思い出です。

七五三のお祝いも両親や実家の母も参列し、大勢でおまいりしたのも氏神様でした。コロナから初詣に夜に出かけることもなく、日中に夫婦二人で破魔矢を求め、おみくじを引くのが通例となっていました。



天祖神社



夫婦銀杏

新年あいさつ

後継者対策部の 昨年一年間の総括と 新年の抱負

後継者対策部長 澤田 剛 さくら分会

新年あけましておめでとうございます。豊島支部後継者対策部長の澤田です。新しい年の始まりにあたり、皆様にはますますのご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

後継者対策部は50代までの若手組合員が集まる部で、主に子育て向けのイベントや若手の交流会、学習などを通じて若手同士の交流や結集を図っています。昨年は、後継者世代の結集をより一層進めるべく様々な取り組みを行い、組織内のつながりを深め共に成長するための大きな一歩を築いてきました。特に他支部との協力も進め、組織全体での連携強化を強めました。仕事確保の観点からは、新たな技術の導入とその活用を目指し、文京支部や三鷹武蔵野支部と「ドローンセミナー」を開催、豊島・文京・新宿で企画した「3支部合同のボウリング大会」では、支部を超えた親睦を深め一体感を高める機会となりました。また、「インボイス制度」や「働き方改革」、「電子帳簿保存」など新たに始まる法改正や業務に対応するためのセミナーを開催し、組合員の相談にも対応しました。

新しい年が始まり、後継者対策部では一層の飛躍を目指しております。若手世代の結束を一段と強化し、若手が結集できるよう様々な取り組みを行います。また、イベントの企画だけでなく組合員の要望に耳を傾け、迅速かつ柔軟に対応できるよう引き続き学習会の企画や相談活用を進めてまいります。組合員の期待に応え、共に成長し続ける一年となることを願っております。本年も一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



昨年は飛躍できた一年、 今年も引きつづき 青年部活動に邁進します

青年部部长 唐澤一貴 企業交流分会

新年あけまして、あめでございます。昨年は、今までやったことのなかった青年部独自イベントの開催や行事への参加等をさせて頂き、青年部にとって飛躍のできた1年だったと思います。

3月に行ったスノーボーイイベントから始まり、7月には多摩川いかだレースへの参加、11月には青年部として十数年ぶりに豊島ワンパク祭りに参加をさせて頂きました。また、12月には東京土建城北ブロックの4支部合同で青年部交流会を行い、豊島支部だけではなく、他支部の青年部員とも関係強化を図ってまいりました。

毎月の部会は定期的に開催し、部会とは別に拡大行動も毎月行い、新たな加入者の募集やイベントへの参加をお願いしてまいりました。しかしながら固定メンバーでの開催が多く、新たな部員の定期的な参加に繋がらない事が今後の課題だと考えております。本年につきましてはこの点を重点的に強化し、継続的な部会への参加を目標に呼び掛けを行っていききたいと思います。

ここ数年はコロナ禍の影響で思うような活動が出来ず、前部長である和田君をはじめ、ともに活動している部員と共に頭を悩ませながら活動をしてまいりました。規制等が解除され活動の幅を広げられる今こそ旺盛な活動を行い、東京土建の仲間との結束を固め、土建の活動だけでなく、地域貢献も積極的に行い活動の幅を広げられたらと思います。

まだまだ若輩者の我々ですが、引き続き青年部活動に邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



ワンパクまつりにて

仲間の声を聞き取り、 もっと大きな組織にしていきたい

豊島支部PALの会会長 田中承宏 教宣部員
椎名町分会



明けましておめでとうございます。本年も東京土建豊島支部、PALの会をよろしくお願い致します。

PALの会は、別名「職長の会」と言われ、ゼネコンやハウスメーカーなどの現場で中心的に働いている仲間の会です。大手企業交渉では、5大ゼネコンやサブコンなどで働いている仲間の声を届けようと奮闘しています。

久々のイベント、楽しく学ぶを再確認

豊島支部PALの会では、コロナ禍で活動がほとんどできない時期が続きましたが、昨年から活動を本格的に復活させました。秋の拡大月間では、PALの会で独自の行動をおこない新たな仲間を増やしました。

また、11月には城北ブロックでのイベントを4年ぶりに開催し、交流を深めました。久々に顔を合わせた仲間も多く、楽しい時間の中にたくさんの学びがあ

る時間となりました。

何でも言える、聞ける組織に

本年では、今までおこなってきた活動をさらに強化していきたいと思っています。仲間を増やすところでは、春・秋の拡大月間にPAL独自の行動をしていきたい。各分会の後継者世代との話し合いの場を設け、現場の状況や、改善点などの声を聞き取り、企業交渉へ生かしていきたいと思っています。

また、楽しいイベントを定期的に企画し、より多くの参加者の確保を目指していきます。

楽しみながらの時間は、どんな会議よりも多くの情報が聞ける機会ととらえています。

PALの会の強化のために、行動をコツコツおこない、イベントを旺盛に展開していきますので、ご協力をお願いいたします。

将来的には、PALの会員同士が何でも言える仲間の集まりにできたらいいなと思っています。困ったらPALの人に聞いてみよう、PALのイベントなら行ってみよう、

と思われるような会にしていきたいと思っていますので、本年もPALの会を宜しくお願い致します。

新年明けましておめでとうございます

執行委員長 宮本卓廣 上池袋本町分会

組合員の皆さん、そして運動を支えてくださる家族の皆さんへ、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年5月より、新型コロナウイルスも5類に引き下げられ、少しずつですが、コロナ禍以前の運動や、支部・分会独自のイベントが動き出しました。久しぶりの行動、イベントもありましたので、忘れてしまっていることも多く、準備不

足などいろいろと混乱もありました。しかし、今年度も、昨年以上に運動に全力で取り組み、支部独自のイベントも活発に行って行きたいと思っています。

最後に、今年も善き一年となりますように、組合員とそのご家族の健康とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。本年も豊島支部の運動を盛り上げて頂けますよう、宜しくお願いいたします。



宮本委員長(右)と左は連藤副委員長

新年を寿ぎ、 趣味のお神輿の話

伊藤寿 教育宣伝部部長 池袋分会

池袋分会の伊藤寿と申します。常任委員で教宣部長をやらせていただいております。新年のあいさつというのもありがちな話題ですので、私ごとで恐縮ですが、趣味のお神輿について書かせてもらいます。

好きになったきっかけは、自分の親父の影響が強いです。親父は、福島



県生まれで集団就職で東京浅草で洋裁の職人になる為の修行をしておりました。土地柄、お祭りも盛んで、若い頃はかなり江戸の文化を叩き込まれたようで、三社祭にも積極的に参加していたようです。その親父の背中を見て育ち、幼少期の頃はいろんな場所の神輿場に連れて行ってもらいました。粋で、いなせで、カッコいい！魅了されました。

そんな私が大人になり、先輩や後輩たちと神輿同好会を立ち上げ、年間約30ヶ所にお神輿をかつぎに行きました。南池袋分会の分会長の太田さんとは、若い時から同じ地元の町会で仲良くして、共通の趣味、お神輿も同じで楽しい日々を過ごして



ます。そして仲間がたくさん増えて、気の合う友人達とお神輿の後のお酒が最高です。今度は、こう担ごうとか、こう盛り上げようとか、いろいろ反省会もします。腹を割って話せる仲間、信頼できる仲間、今の豊島支部の仲間達と同じです。自分にとってお神輿に出会えて本当に良かった

し、今の糧になっています。

もともとのお神輿は地元の氏神様が一年に一度、氏子の街を廻り願いを聞く為の分家の神社です。街の安全を祈願し、人々が元気で仲良く住めるよう、神様が祭を通して見守ってくれているんです。2024年も出来る限り頑張りたいです。

東京母親大会／

「沖縄を再び戦場にさせない」 分科会に参加して



鵜崎輝江 通信員
さくら分会



東京母親大会が12月16日(土)に町田市民ホールで開催され、豊島支部女性の会から8人が参加しました。

今回のメインテーマは「9条のある国に軍備はいらないー響かせよう戦争反対の声を、実現しようジェンダー平等の社会を」。

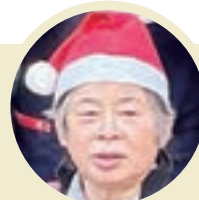
午前中は9分科会が開催され、私は「沖縄を再び戦場にさせない」に参加し、住民投票運動をテーマにしたドキュメンタリー映画を鑑賞しました。映画は、石垣島の若者たちが、石垣市平得大保への陸上自衛隊配備計画の賛否を問う住民投票を実施するために奮闘する姿を追いました。

「島がミサイル基地になるのか」の問題に、住民投票に必要な署名数を有権者の4分の1が必要とする条例案に対して、自衛隊配備計画に反対

する署名を4分の1以上集めるも、石垣市議会では住民投票条例案を否決します。そこで、市民たちは「石垣島住民投票義務付け訴訟」を開始します。「島がミサイル基地になるのか」の賛否を問う住民投票に、自分たちが投票できる権利があるのか、つまり市は、住民投票を無視して良いのか?を問う裁判です。しかし、2023年5月23日に那覇地裁は原告の訴えを却下しました。原告は控訴し、24年3月に控訴審判決の予定です。住民署名を4分の1以上集めたのに議会はそれを無視する。それでも住民投票を実施する金城龍太郎さんたちは素晴らしい。若者たちよ、門前払いされても島を基地にしないで欲しい。住民投票運動を頑張ってほしい。いい笑顔をしていると思いました。

女性の会で集めた物資を

豊島区民社会福祉協議会へ



広瀬千鶴 通信員
上池袋本町分会

実りある懇談もできました

女性の会では昨年に引き続き今年も組合員、女性の会会員に呼びかけ、フードバンク支援に取り組みました。

お米、レトルト食品、タオルなどたくさん寄せられ、12月8日に豊島区民社会福祉協議会に届けました。今回は事前に懇談を申し出ていたところ、大竹課長、三枝係長を始め、3人の職員と女性の会からは、山本会長と3人の会員、担当書記とで懇談することができました。初めに山本会長より、住宅デーで集めた募金をお渡ししてとても感謝されました。

1番聞きたいと思っていた。フードバンクに物資を提供する場合、どんな品物が喜ばれるか、需要があるかについては、やはりお米ということでした。区内の子供食堂に分けたり、困っている方に提供しているそうです。区のホームページを見たり、知人の紹介、区への相談から紹介されて社会福祉協議会に訪れるそうです。区内のフードバンクへも提供するそうです。

子供食堂の事についてもお聞きしたところ、三枝課長は高齢者施設での経験があるとのこと、私たちの質問にも具体的なアドバイスをいただきました。子供食堂を実施するには保健所の問題でいくつかルールがあって、



「作った場所で提供しなければならない」「シンクが2つなければならない」「トイレも必要」「食品衛生責任者を置かなければならない」などがあること。メニューでカレーや流しそうめんはNGとは驚きました。三枝課長からは、みんなの食卓にいろいろな世代が集うようにしても良いのでは。はじめは皆さんの周りの方に勧めて、知り合いを誘う方が無理がないのでは。アナウンスは皆さんがして、社会福祉協議会が後援してもいいですよ。区内で実施しているところへの見学希望があれば紹介します。等々。これからも相談に乗って頂けるとのことで嬉しい懇談ができて、これから何をすれば良いか道筋が見えてきました。

懇談した会議室の壁一面にデパートから提供されたランドセルが100個くらい積まれていて、これを抱く親子の姿を思い浮かべて胸が熱くなりました。

ドキドキの もちつき 大会



山本明美通信員
上池袋本町分会

12月17日、くすのき公園にて上池袋本町分会で初めてのもちつき大会を開催しました。

当日、朝は風が強く寒かった天気も、日中は暖かくなってきました。お客さんも少しずつ来てくださり、お餅がつき上がるのを待っていただく場面もありました。

子供さんにはスーパーボールすくいコーナー(無料)も設けて、キラキラとした笑顔を見せてくれました。

おもちのつき上がるペースを上げるために、途中で支部事務所から餅つき機を借りてきて、杵と併用でついたおもちはさらに肌がきれいになりました。

大きめに作った2個入りで300円

のお餅は、買い求めて頂いたそれぞれのご家庭で喜んでもらえたと思います。

きなことあんこ1個ずつ入れて欲しい、白いお餅だけがいい、小さめに作って欲しいなどのリクエストにもお応えしました。

子供の餅つき体験では、千本杵を使って一度に5人のお子さんが体験しました。30キロのお米から200パック作ることができました。来場者はスタッフを含め200人を超え、住宅相談と包丁とぎの依頼もありました。ガザへの募金も集まりました。当日お手伝頂いた他の分会や、団体のみなさん、分会の組合員とご家族に心よりお礼申し上げます。



ふくしま復興 共同センターより お礼状をいただきました

2023年10月17日に女性の会が開催した学習会で講師の派遣をお願いした「ふくしま復興共同センター」に対して、女性の会では募金を行いました。そのお礼状が届きましたので掲載します。福島の実状を垣間見て頂き、募金にご協力ください。



海洋放出ストップのための 緊急募金

募金額は、団体1口5000円、個人1口1000円(何口でも可)。

振込先

- 銀行口座
東北労働金庫 福島支店
普通 6331325
ふくしま復興共同センター
代表委員 斎藤富春
- 郵便振り込み
02290-8-119013
ふくしま復興共同センター

東京土建豊島支部女性の会様

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から12年9か月が経ちました。事故を起こした原発の廃炉の見通しは依然として立っていません。福島県の発表だけでも26,808人、事故当時の比較では8万人を超える福島県民が故郷に戻っていません。避難12市町村の児童生徒数は、震災前の2010年が8,388人だったのに対し、2023年度は1,149人となっています。また農林水産業、観光業など生業の復興にむけた懸命の努力も続けられていますが、事故前の水準にはなかなか戻りません。とりわけ漁業の水揚げ量は約2割にとどまっています。

このような状況の中で、11月2日から20日までALPS処理水の3回目の海洋放出が行われました。今年度は4回の放出が計画されており、4回目は年明けになるそうです。全漁連、福島県漁連はじめ漁業者のみなさんは反対の立場を続けています。「福島県の漁業は壊滅する」「後継者がいなくなる」と強い不安を訴えています。

政府は、脱炭素やエネルギー危機を口実に、原発新增設や運転期間の延長など原発回帰への大転換となる「GX脱炭素電源法案」いわゆる原発推進等5法案を、国民にまともな説明もせずわずか1か月余りで可決・成立させました。また、「原発発電量3倍化」というアメリカ政府の宣言に日本はいち早く賛同しました。福島原発事故を終わったかのように扱い、事故の教訓や福島県民の苦しみを踏みにじるものです。

「原発事故は2度と起こしてはいけない」これが福島県民の共通の思いです。全国のみなさんと連帯し、福島県民の復興と原発ゼロをむすんだ運動にねばりよくとりくんでまいります。引き続きのご支援をお願い申し上げ、御礼いたします。

2023年12月18日

ふくしま復興共同センター

代表委員 野木 茂雄

集団健診

集団健診

場 所	日 程
健生病院	2月25日(日)
鬼子母神診療所	
東京メディカルクリニック	

女性健診

場 所	日 程
東京メディカルクリニック	3月3日(日)
	3月10日(日)

上級救命講習の開催

日時 2024年1月28日(日)

場所 池袋消防署(イケピズとなり)

時間 9時～5時 昼食は各自にて

代金 2,800円

チームナマズ会員及び後継者世代(50歳代)には支部から2,000円の補助がでますので、800円で受講できます。

